

平成23年12月7日公表

平成23年産水稻の収穫量（大分県）

10 a 当たり収量は499kg（作況指数99）
— 収穫量（子実用）は11万7,300 t —

【調査結果の概要】

大分県における平成23年産水稻の作柄は、全もみ数が平年に比べて多かったものの、出穂前後の日照不足といもち病の発生等で登熟（実入り）が不良となり、10 a 当たり収量は499kg（作況指数99）、収穫量（子実用）は11万7,300t（前年産対比97%）となりました。

【作柄概況】

田植最盛期は、3月中旬から続いた渇水と前作麦の収穫遅れにより、平年に比べて3日遅い6月15日となりました。

生育は、5月下旬から6月中旬の日照不足で初期生育が抑制されたことから穂数がやや少なくなりました。もみ数は、穂数減少の補償作用で1穂当たりもみ数が多くなったことから、1㎡当たり全もみ数が平年に比べてやや多くなりました。

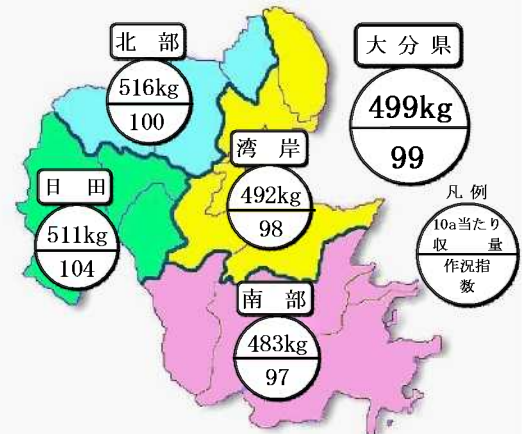
出穂最盛期は、8月の日照不足で生育が遅れたことから、平年に比べて3日遅い8月27日となりました。

9月中旬以降は、日照不足や台風第15号の影響等による倒伏、いもち病の発生によって稔実や粒肥大がやや不良となったため、登熟（実入り）が不良となり、くず米の発生が多くなりました。

刈取最盛期は、10月中旬に曇雨天が多かったことから収穫作業が停滞して、平年に比べて2日遅い10月17日となりました。

作柄表示地帯別の10 a 当たり収量は、北部では、もみ数がやや多かったものの、登熟がやや不良となったことから516kg（作況指数100）、湾岸は、もみ数がやや多かったものの、登熟がやや不良となったことから492kg（同98）、南部は、もみ数がやや多かったものの、登熟が不良となったことから483kg（同97）、日田は、もみ数が多かったことと登熟が平年並みとなったことから511kg（同104）となりました。

図 水稻の作柄表示地帯別
10a当たり収量及び作況指数



区分	作柄表示地帯に包括される市町村
北部	中津市、豊後高田市、宇佐市
湾岸	大分市、別府市、杵築市、由布市、国東市、姫島村、日出町
南部	佐伯市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市
日田	日田市、九重町、玖珠町

○ 作況指数とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率です。

この資料は九州農政局ホームページ大分地域センターの「大分の統計情報」

【 http://www.maff.go.jp/kyusyu/oita/toukei_jouhou/toukei_sokuho.html 】でご覧になれます。

この統計調査における調査目的、調査対象などの調査仕様は、【調査の仕様】9ページに掲載しています。

表1 平成23年産水稻の作柄表示地帯別作付面積及び収穫量

区 分	作付面積 (子実用) ①			10 a 当たり 収 量 ②	収 穫 量 (子実用)				参 考			
	前年産との比較				③=①×②	前年産との比較			主食用 作付面積 ④	収 穫 量 (主食用) ⑤=④×②	10 a 当たり 平年収量 ⑥	作 況 指 数 ⑦=②/⑥
	対差	対比	対差			対比						
	ha	ha	%	kg	t	t	%	ha	t	kg		
大分県	23,500	△ 900	96	499	117,300	△ 3,500	97	23,400	116,800	503	99	
北部	7,030	△ 370	95	516	36,300	△ 1,200	97	517	100	
湾岸	6,890	△ 230	97	492	33,900	△ 1,400	96	500	98	
南部	6,750	△ 180	97	483	32,600	△ 1,300	96	498	97	
目田	2,800	△ 160	95	511	14,300	100	101	490	104	

- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積です。
 2 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む）から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の面積を除いた面積です。
 3 10 a 当たり平年収量とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいいます。
 4 陸稲の収穫量は、作付面積が1 ha未満のため、掲載を省略しました。

表2 平成23年産水稻の主な被害面積及び被害量

被 害 種 類	被 害 面 積	被 害 量	構 成 比
			ha
総 数	74,200	16,600	100
うち 気 象 被 害	26,300	7,320	44
風 水 害	2,850	1,150	7
干 害	116	81	0
日 照 不 足	23,300	6,090	37
うち 病 害	33,900	7,390	44
いもち病	14,100	4,980	30
紋 枯 病	4,860	581	3
そ の 他	14,900	1,830	11
うち 虫 害	11,700	778	5
ウ ン カ	130	80	0
カ メ ム シ	662	90	1
そ の 他	10,900	608	4
うち そ の 他	2,260	1,160	7

- 被害面積の総数は、被害種類別面積の延べ数であり、同一地域で2種類以上の被害を受けた場合は重複して計上しています。
 ○ 病害のその他は、内穎褐変病等です。
 ○ 虫害のその他は、コブノメイガ等です。
 ○ 被害面積とは、農作物に損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合にとれ得ると見込まれる収量（被害なかりせば収量）から減収した面積をいいます。
 ○ 被害量とは、農作物の栽培が開始されてから収納されるまでの期間に、災害等によって損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合にとれ得ると見込まれる収量（被害なかりせば収量）より減収した量をいいます。

【関連するデータ】

参考 1

平成23年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況及び10a当たり収量内訳 (作柄表示地帯別)

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としています（参考5参照）。
農家等が販売するために使用している選別ふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、ふるい目幅の重量割合とふるい目幅別10a当たり収量の概数値を示すと次のとおりです。

単位 { 重量割合：％
平均対差：ポイント

区分	合計	ふるい目幅					
		2.00mm 以上	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm
作柄表示地帯							
大分県	100.0	57.5	27.2	6.7	3.7	3.3	1.6
重量割合		△ 0.4	0.5	△ 0.1	△ 0.5	0.3	0.2
平均対差							
北部	100.0	60.8	25.3	6.3	3.1	2.9	1.6
重量割合		0.8	0.1	0.2	△ 1.7	0.4	0.2
平均対差							
湾岸	100.0	49.9	31.4	8.7	4.2	4.2	1.6
重量割合		2.0	△ 0.2	△ 0.5	△ 1.2	0.0	△ 0.1
平均対差							
南部	100.0	55.4	28.1	6.6	4.7	3.4	1.8
重量割合		△ 3.9	1.4	0.3	1.1	0.6	0.5
平均対差							
日田	100.0	69.0	21.4	4.5	2.1	2.2	0.8
重量割合		0.3	0.4	△ 0.5	△ 0.3	0.2	△ 0.1
平均対差							

単位：kg

区分	10a当たり 収量 (1.70mm基準)	選別ふるい目幅別10a当たり収量					
		2.00mm 選別	1.90mm 選別	1.85mm 選別	1.80mm 選別	1.75mm 選別	1.70mm 選別
作柄表示地帯							
大分県	499	287	423	456	475	491	499
北部	516	314	444	477	493	508	516
湾岸	492	246	400	443	463	484	492
南部	483	268	403	435	458	474	483
日田	511	353	462	485	496	507	511

- 注：1 平均対差に用いた平均値は、直近5ヶ年の重量割合の平均値です。
2 選別ふるい目幅別10a当たり収量とは、表頭のふるい目幅を使用した際に得られる10a当たり収量のことです。
3 未熟粒・被害粒の混入が多く農産物規格三等の品位に達しない場合は再選別を行っており、その選別後の値を含んでいます。

参考2

水稻の作柄表示地帯別生育期一覧表

作柄表示地帯	田 植 期				草丈の 長 短	茎数の 多 少	被害の 多 少
	始 期	最盛期	終 期	最盛期の 平年遅速			
大 分 県	5月 18日	6月 15日	6月 29日	3日遅い	平年並み	平年並み	やや多い
北 部	5月 22日	6月 22日	7月 5日	3日遅い	平年並み	やや多い	平年並み
湾 岸	5月 22日	6月 18日	6月 29日	2日遅い	平年並み	平年並み	やや多い
南 部	5月 11日	6月 10日	6月 27日	5日遅い	平年並み	平年並み	やや多い
日 田	5月 14日	6月 2日	6月 17日	2日遅い	やや短い	平年並み	平年並み

作柄表示地帯	出 穂 期				穂揃いの 良 否	穂数の 多 少	1穂当たり もみ数の多少	全もみ数 の 多 少
	始 期	最盛期	終 期	最盛期の 平年遅速				
大 分 県	8月 3日	8月 27日	9月 3日	3日遅い	平年並み	やや少ない	多 い	やや多い
北 部	7月 27日	8月 31日	9月 6日	4日遅い	平年並み	やや少ない	多 い	やや多い
湾 岸	8月 5日	8月 28日	9月 3日	2日遅い	平年並み	やや少ない	やや多い	やや多い
南 部	8月 6日	8月 24日	9月 1日	3日遅い	平年並み	やや少ない	多 い	やや多い
日 田	8月 6日	8月 19日	8月 25日	2日遅い	や や 良	やや少ない	多 い	多 い

作柄表示地帯	刈 取 期				登熟の 良 否	稔実の 良 否	粒肥大 の良否	粒充実 の良否
	始 期	最盛期	終 期	最盛期の 平年遅速				
大 分 県	9月 20日	10月 17日	11月 1日	2日遅い	不 良	やや不良	やや不良	平年並み
北 部	9月 18日	10月 20日	11月 3日	3日遅い	やや不良	やや不良	やや不良	平年並み
湾 岸	9月 16日	10月 17日	10月 29日	2日遅い	やや不良	やや不良	やや不良	や や 良
南 部	9月 25日	10月 17日	11月 2日	3日遅い	不 良	やや不良	やや不良	やや不良
日 田	9月 15日	10月 5日	10月 27日	2日遅い	平年並み	やや不良	やや不良	や や 良

- 時期別の「始期」は面積割合が5%、「最盛期」は同50%、「終期」は同95%にそれぞれ達した期日です。
- 「穂数の多少」は、1㎡当りに出穂したすべての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- 「1穂当たりもみ数の多少」は、1穂についているすべてのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのすべてのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。
- 上記の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した1㎡当たり穂数等の各収量構成要素の平年値との比較です。

多少 (良否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多い (良)
対平年比	94%以下	95~98%	99~101%	102~105%	106%以上

参考3

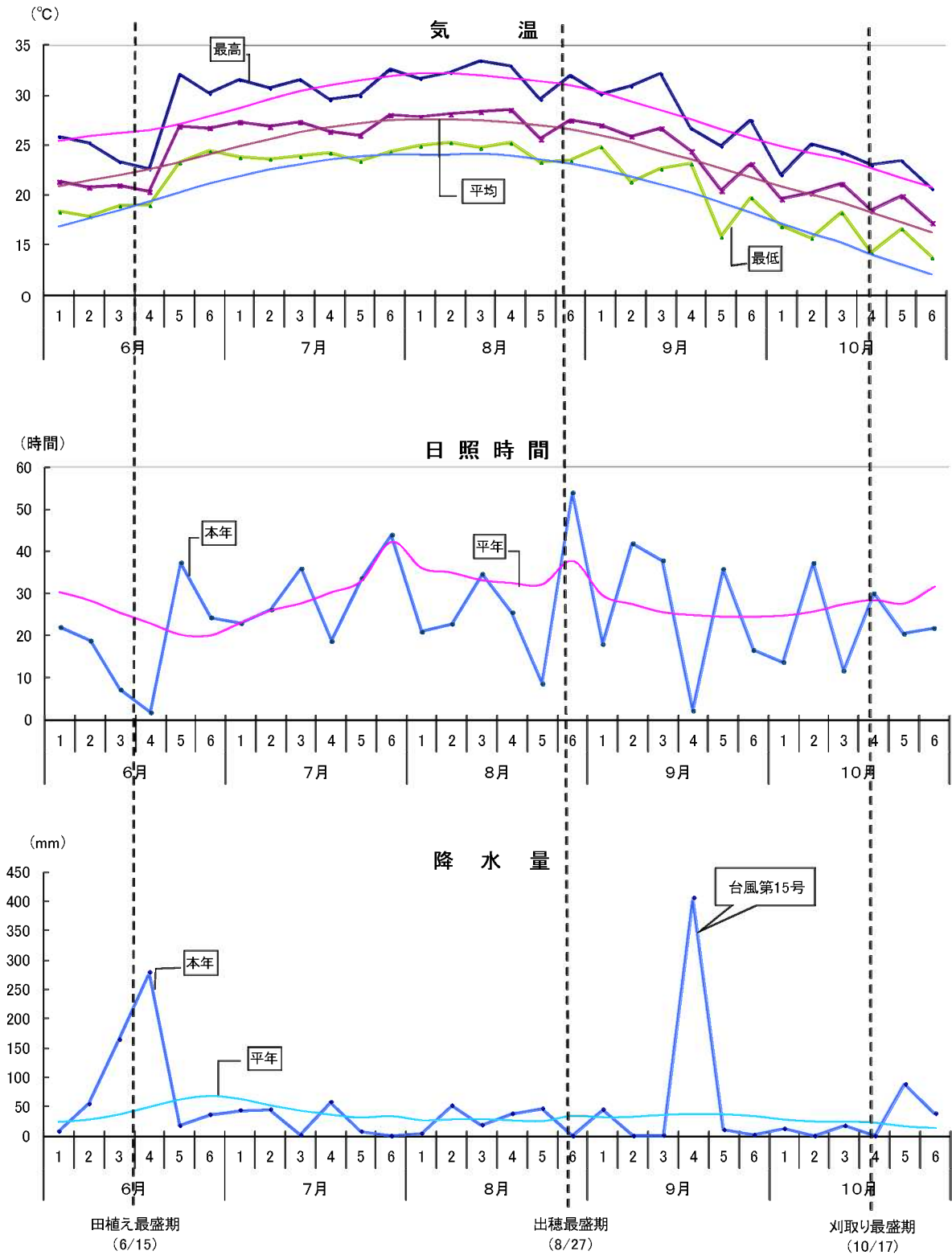
水稻の年次別推移（大分県）

年産	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収穫量 (子実用)	作況 指数	10a当たり 平年収量	参考		主な要因
						主食用 作付面積	収穫量 (主食用)	
	ha	kg	t		kg	ha	t	
昭. 54	40,000	481	192,400	108	446	
55	38,700	357	138,200	79	452	異常低温、長雨
56	37,100	480	178,100	106	452	
57	37,000	421	155,800	92	458	日照不足
58	37,000	455	168,400	99	458	高温障害
59	37,300	490	182,800	107	458	
60	37,600	484	182,000	105	462	
61	37,000	482	178,300	103	466	
62	34,200	416	142,300	89	470	風水害、日照不足
63	33,400	468	156,300	100	470	風水害、日照不足
平. 元	33,200	487	161,700	104	470	
2	32,700	461	150,700	98	472	水害、台風、高夜温
3	32,000	392	125,400	83	474	台風、天候不順
4	33,000	493	162,700	104	474	
5	33,800	367	124,000	77	474	冷夏長雨、台風
6	34,700	590	204,700	124	474	高温多照、少雨、干害
7	33,300	519	172,800	109	474	高温多照、少雨
8	30,800	492	151,500	104	474	
9	30,500	479	146,100	100	478	
10	28,200	499	140,700	104	478	
11	27,800	387	107,600	80	485	台風、日照不足
12	27,500	516	141,900	105	490	
13	26,800	512	137,200	104	490	
14	26,400	513	135,400	103	496	
15	26,100	485	126,600	97	498	長雨、日照不足
16	26,200	432	113,200	86	501	台風16, 18, 21, 23号、日照不足
17	26,200	459	120,300	91	503	台風14号、高温障害(乳白)
18	26,200	395	103,500	79	503	日照不足、台風13号、潮風害
19	25,900	493	127,700	98	503	ウンカ、紋枯病
20	24,800	519	128,700	103	503	24,800	128,700	高温多照、少雨
21	24,800	502	124,500	100	503	24,800	124,500	
22	24,400	495	120,800	98	503	24,300	120,300	高温、整粒不足、形質低下
23	23,500	499	117,300	99	503	23,400	116,800	

注：「…」は事実不詳又は調査を欠くものです。

参考 4

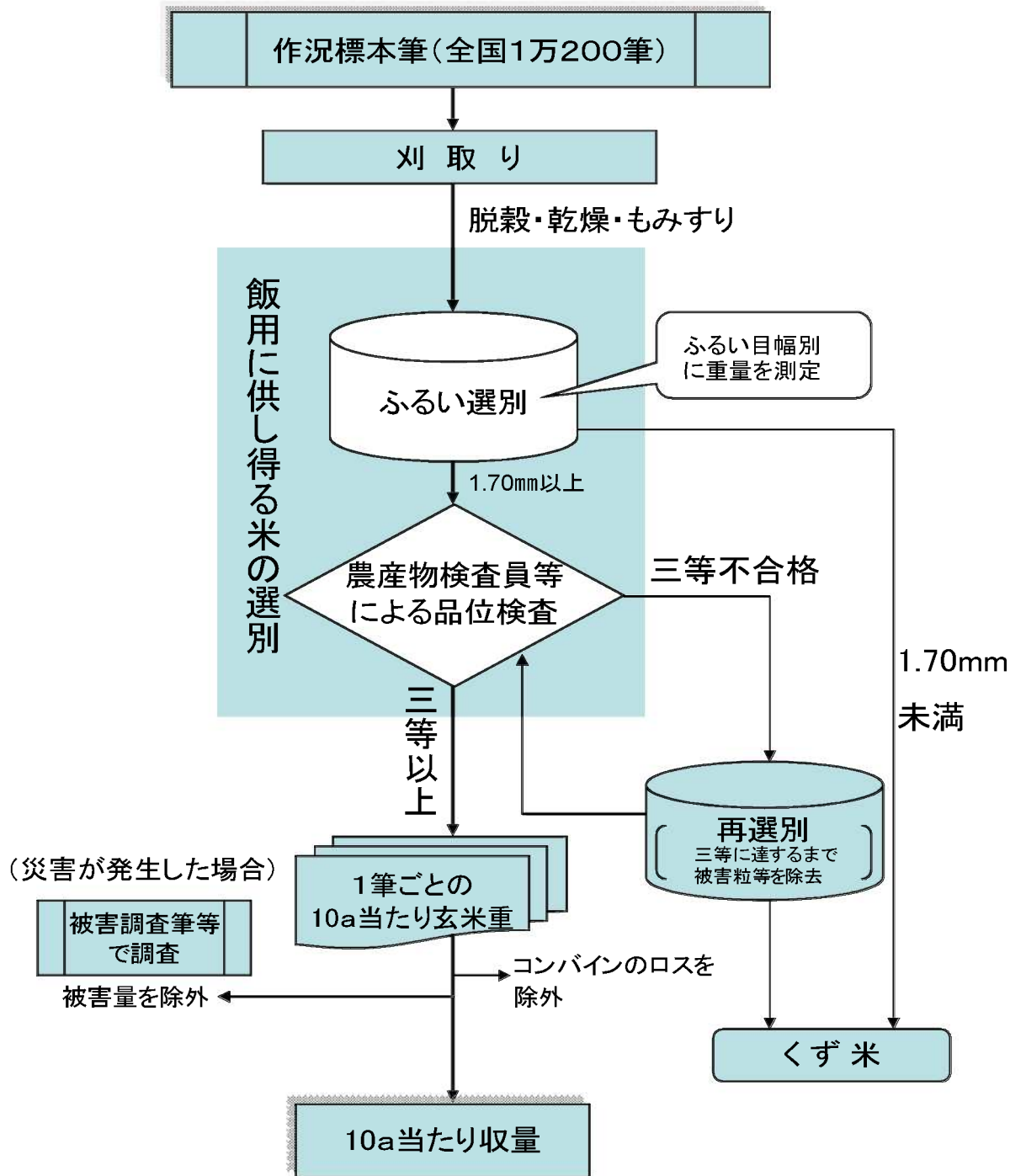
平成23年気象グラフ平年比較（大分市）



資料：大分地方気象台「アメダスデータ」

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（参考6参照）ごとに一定面積の稲を刈り取り、農産物規格三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測しています（下図参照）。



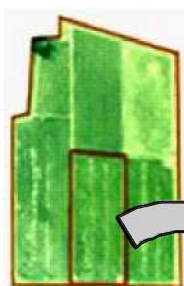
作況標本筆^{ふで}とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆(1枚のほ場を筆と呼びます。)は、都道府県ごとの水稻の10a当たり収量が把握できるように、標本理論に基づいて以下のように各地で選定(全国で約1万200筆)しています。

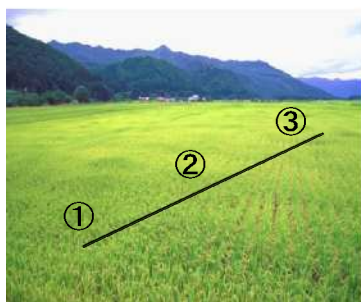
都道府県内の全耕地 (母集団)



標本単位区 (約 2 ha)



作況標本筆 (全国で約 1万200筆)



① 都道府県ごとの耕地を、約 2 ha の区画に区切った単位区の集まり(調査母集団)として整理し、その中の水田を含むものから、無作為抽出法(人間の恣意を排したくじ引きの様な選び方)により「標本単位区」を選んでいます。

② 標本単位区の中から無作為に 1 枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としています。

③ 各作況標本筆の対角線上の 3 か所を実測調査箇所として、サンプル採取(坪刈り)を行っています。

【調査の仕様】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稲作付面積調査及び稲調査（水稲・陸稲）の収穫量調査として実施し、水陸稲の作付面積、作柄状況、収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導、共済事業の適切な運営等の農政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査の対象

大分県

3 調査対象数

(1) 作付面積調査

標本単位区：865単位区 巡回・見積り：18市町村

(2) 収穫量調査

作況標本筆：185筆 作況基準筆：19筆 巡回・見積り：18市町村

4 調査事項

水稲の作付面積、は種期の遅速、田植期の遅速、活着の良否、草丈の長短、茎数の多少、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種状況。

5 調査期間

(1) 作付面積調査：7月15日現在

(2) 収穫量調査：収穫期

6 調査方法

(1) 作付面積調査

調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積りにより行いました。

(2) 収穫量調査

調査は、作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査並びに作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行いました。

7 集計方法

(1) 作付面積調査

対地標本実測調査結果、巡回・見積り結果により取りまとめています。

(2) 収穫量調査

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより補完して取りまとめています。

8 用語の解説

(1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WC S用稲、わら専用稲等を含む）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指します。

(2) 「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率です。

(3) 「10a当たり平年収量」とは、水稲の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実

収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいいます。

- (4) 「被害面積」とは、農作物に損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合に穫れ得ると見込まれる収量（被害なかりせば収量）から減収した面積をいいます。
- (5) 「被害量」とは、農作物の栽培が開始されてから収納されるまでの期間に、災害等によって損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合に穫れ得ると見込まれる収量（被害なかりせば収量）より減収した量をいいます。

9 その他

この資料の確定した詳細な数値はホームページに掲載（平成24年2月下旬予定）するとともに、その後刊行する「耕地及び作付面積統計」及び「作物統計」に掲載します。

なお、ホームページに掲載した後の正誤情報はホームページでお知らせします。

【統計表の見方】

- 1 統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがあります。

原 数		7桁以上 (100万)	6桁 (10万)	5桁 (万)	4桁 (1,000)	3桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		3桁	2桁		1桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前（原数）	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した後（統計数値）	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

- 2 表中に用いた記号は以下のとおりです。

「△」：負数又は減少したもの

「…」：事実不詳又は調査を欠くもの

【関連リンク】

九州各県

九州農政局ホームページ>統計情報

<http://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/index.html>

全国

農林水産省ホームページ>統計情報

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/>



問い合わせ先

◎本統計調査結果について

連絡先：九州農政局大分地域センター

農政推進グループ 生産流通消費・審査班

TEL 097-532-6177 FAX 097-538-1820

◎農林水産統計全般について

連絡先：九州農政局大分地域センター

農政推進グループ 統計企画係

TEL 097-532-6177 FAX 097-538-1820